

学生大使 実施報告書

氏名：岩瀬 和

学部・学科（コース）・学年：

人文社会科学部・人文社会科学科・法政経コース・1年

派遣先大学：ベトナム国家農業大学

派遣期間：2/21～3/6

1 日本語教室での活動内容

ベトナム国家農業大学では、日本語を学習している日向クラブの活動に参加し、授業を行った。平日 18 時から 19 時半までという短い時間ではあったものの、充実した時間を送ることができた。日向クラブには、小さい子から社会人まで、幅広い年齢層の方々が参加しており、日本語のレベルも一人一人異なっていた。中には、日本語でのコミュニケーションが取れる人もいて、日向クラブのメンバーの語学力に驚いた。今回は、派遣学生の人数が多かったため、日本語を教える際には、現地学生一人に対して、山大生一人というようにチーム分けをして行われた。自分が担当する日向クラブのメンバーは日々異なっていたが、それぞれの日本語レベルにあった授業を行えるように工夫した。私が担当した方は、英語ができる人が多かったため、英語を基にして授業を行った。英語の文型から日本語の文法を教える際には、相手の好きなことなどを聞いて、それらを例文にして教えるようにした。また、ひらがなや漢字のドリルを持参し、それを基に書き順や発音を丁寧に教えた。日本語を少し話せる学生には、正しい日本語の発音や使い方などを中心に教えるようにした。加えて、日本語の勉強を楽しんでもらうために、ただ教えるのではなく、趣味や日本の文化の話などを交えた会話を行って、授業と交流を同時に行うように意識した。

2 日本語教室以外での交流活動

ベトナムでは日本語教室の時間が平日の夕方のみであったため、その他の交流時間が十分に取れた派遣であった。現地学生の方々は、私たちの要望を聞き入れて、毎日様々な観光地やお店に連れて行ってくれた。初めは、バイクの多さに驚いたが、現地学生が共に行動してくれたおかげで、安全に楽しく、充実した二週間を過ごすことができた。この派遣の中で、特に近くのフルーツ屋さんで買った日本では食べられないようなフルーツを現地学生と共に食べたことはとても思い出に残っている。どれも初めて食べるものばかりで、貴重な経験となった。また、時間が空いたときには、ホテルの部屋で日本のゲームやトランプを一緒に行い、交流を深めた。日本とベトナムのそれぞれの国で流行っているゲームを教えあったり、派遣期間後半には、ベトナム語を教えてもらったりもした。現地学生が日本語を使って話しかけてくれる姿がとても嬉しく、国籍が異なる人々と共通の話題で盛り上げられることに感動した。移動ではバスを主に用いたが、そのバス停に行くまでの道のりには驚かされた。どの道も信号がなく、バイクや車が行き交う道路を歩行者が自分で注意して渡る必要があった。

【学生大使 実施報告書】

日本だと信号がないことはあまりないため、自身で自分の身を守ることの重要性を改めて感じる体験であった。

3 参加目標への達成度と努力した内容

今回私は、二つの目標を持ってこのプログラムに参加した。一つ目は、現地学生に自分から話しかけ、日本との相違点や共通点を見つけることであった。ベトナムに到着してからの数日は、慣れないことばかりであり積極的に話しかけることができていなかったが、現地学生が先に話しかけてくれ、後半にかけて自分から話すことができるようになった。会話をしていく中で、ベトナムの文化について教えてもらったり、不思議に思ったことや分からないことについて質問したりして、新しい知識を得ることができ、自分の視野を広げることもできたように感じる。二つ目は、現地学生に日本をもっと好きになってもらえるような日本語の授業を行うことであった。初めは、日本語が通じない相手に日本語を教えることに、とても苦労した。今までは日本語が伝わるのが当たり前であったため、どのように教えればよいのか試行錯誤した。後半になるにつれて、だんだん教え方のコツを掴むことができ、ただ教えるだけにならないように、質問をしながら相手の好きなことを基に日本語を教え、楽しんで覚えてもらえるように努力した。また、簡単な日本語を使うことを意識して、現地学生に分かりやすく伝えられるようにした。

4 プログラムに参加した感想

私は初め、このプログラムに参加するかどうか、とても悩んでいたが、参加後の今では参加してよかったと強く感じている。私はもともと海外志向があり、在学中に海外に行きたいと考えていたため、このプログラムについて先輩や友達の話聞く中で、挑戦することを決めた。このプログラムは、普通の海外旅行とは異なり、より現地の生活に密着したものとなっているため、ベトナムの文化について詳しく学ぶことができたように感じる。現地学生とのコミュニケーションは、自分の視野をさらに広げてくれものとなり、自身の成長へとつながった。日本と海外の文化の違いを、身をもって経験したことで、改めて自分の出身国である日本の良さにも気づくことができた。また、常に現地学生と一緒に行動してくれたため、初めは感じていた不安も徐々になくなり、このプログラムを全力で楽しむことができた。今回、このプログラムに参加したことで、異文化交流の楽しさや面白さに気づくことができ、今後もっと様々な経験をしたいとより強く思うようになった。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

「学生大使」派遣プログラムを通して、自分とは異なる文化や生活習慣を持っている人と関わることの面白さに気づくことができた。一緒に活動していく中で、自分との相違点以外にも、共通点が多くあることに気づき、国境を越えても互いに共通するものがあることに驚いた。日本語が伝わらない人々と意思疎通が図れたときには、とても嬉しく感じた。また、今回の経験により、海外へ行くことへのハードルが下がり、もっと様々な国に行き、新しい経験をしたいと強く思うようになった。海外に行けなくても、山形大学に来ている留学生と

【学生大使 実施報告書】

積極的に関わったり、近くで行われる国際交流のイベントに参加したりするなど、自分から異文化交流を行うようにしていきたいと考えている。加えて、今回の活動の中で、語学力という点において、自分の至らない部分に気づくことができたため、今後は英語の学習を重点的に行い、様々な人と会話を行っていけるように頑張りたいと思った。それと同時に、コミュニケーション能力の上昇も目指していきたいと考えている。

6 現地での活動写真

写真1 大学周辺の町並み



写真2 日本語教室の様子



【学生大使 実施報告書】

写真3 みんなでフルーツを食べたときの様子



写真4 アオザイを着たときの様子

